

# 平成 29 年 度 学校安全教室推進事業 防 災 教 室

【日程】平成 29 年 11 月 28 日（火）

【会場】大阪国際交流センター 小ホール

【主催】文部科学省・大阪府教育庁



## 平成 29 年度学校安全教室推進事業防災教室実施要項

- 1 目的 学校における児童生徒の安全の確保が図れるよう、防災教育・防災管理を中心とした学校安全に関する知識を習得し、教職員の指導力向上を図るとともに、学校での防災教育の推進に資する。
- 2 主催 文部科学省・大阪府教育庁
- 3 日時 平成 29 年 11 月 28 日（火） 14 : 00～17 : 00
- 4 会場 大阪国際交流センター 小ホール  
大阪市天王寺区上本町 8 - 2 - 6

### 5 時程

時刻	内容	講師等
13:30～ 14:00	受付	
14:00～ 14:05	開会・あいさつ	大阪府教育庁 保健体育課
14:05～ 15:10	講義（65分） 「みんなの防災学習 ―我が事にする、我々事にする―」	関西大学 社会安全学部 准教授 近藤 誠司
15:10～ 15:35	講習（25分） 「防災安全教育の現状と課題」	岸和田市立山直北小学校 教諭 中内 勇也
15:35～ 15:45	休憩（10分）	
15:45～ 16:55	実践発表連携講義（70分） 「実践的避難所開設と避難訓練」 （実践発表） 「けが人等の発生を想定した避難訓練について ―生徒の role play による―」	NPO法人 日本防災士協会 防災士 山口 泰信 府立 夕陽丘高等学校 養護教諭 出水 典子
16:55～	事務連絡	大阪府教育庁 保健体育課

- 6 対象者
- （1）府立学校の防災教育担当教職員
  - （2）市町村教育委員会指導主事等及び、市町村立学校園の防災教育担当教職員
  - （3）私立及び国立の学校園の防災教育担当教職員

**【講 演】**

**みんなの防災学習 —我が事にする、我々事にする—**

関西大学 社会安全学部

准教授 近藤 誠司

【MEMO】



平成29年度学校安全教室推進事業防災教室

# みんなの防災

## 我が事にする、我々事にする

関西大学 社会安全学部 近藤誠司  
京都大学防災研究所 非常勤講師

2017.11.28.

## はじめに



Malala Yousafzai

One child, one teacher,  
one pen and one book  
can change the world.  
Education is  
the only solution.  
Education First.

# みんな

*Who are WE?*

いま、なにが起きているのか

## 事故の災害化

## 災害の事故化

# 我が事

# 我々事

## きょうのお話し

- 1 教職員のマインド・セット(1)
- 2 教職員のマインド・セット(2)
- 3 児童・生徒のマインド・セット
- 4 「みんなが、みんなで」

PHOTO: Seiji KONDO



岩手県大槌町吉里吉里地区  
2011年3月24日

2011. 3. 11.  
東日本大震災

岩手県陸前高田市気仙川河口付近  
2011年3月23日



PHOTO: Seiji KONDO

# その時...



### 岩手県野田村保育所の“奇跡”

PHOTO: Seiji KONDO



0～6歳の児童, 81人は・  
(職員18名)

### 野田村保育所からの避難ルート



月1の避難訓練、日々の散歩⇒ 具体策を体で覚える  
事態を冷静に判断⇒ 危険を再確認⇒ “二度逃げ”  
なんとしても幼い命を守りたい⇒ あきらめない

### 岩手県野田村保育所の“奇跡”

PHOTO: Seiji KONDO



偶然 → 必然

# 我が事 我々事

### きょうのお話し

- 1 教職員のマインド・セット(1)
- 2 教職員のマインド・セット(2)
- 3 児童・生徒のマインド・セット
- 4 「みんなが、みんなで」

### 身の安全の確保

安否確認 (対・保護者)    情報収集・連携  
行政と見通し共有

### 保護者へ引き渡し






FSS

降水域の内部を立体的に解析して、250m解像度の降水分布を30分先まで5分stepで予測表示

高解像度降水ナウキャスト

FSS

### 安否確認



…自衛隊から連絡がありまして、遺体を確認してほしいと。それで、自衛隊のジープに乗せて頂いて、現場の遺体安置所に行きました。…「見つかってよかったな」と思いました。…きれいな状態でしたので…「きれいだったよ」って、学校に戻って伝えました。

H高校 女性教諭 (p.101)

FSS

### 避難所運営



阪神・淡路大震災



写真: 大橋中学校 (神戸市長田区)

[http://www2.kobe-c.ed.jp/ngcms/?page\\_id=96](http://www2.kobe-c.ed.jp/ngcms/?page_id=96)

FSS

# 我が事

教員と児童・生徒、教員同士、学校と地域の協力  
(防災担当者だけでは太刀打ちできない)

# 我々事

FSS

### きょうのお話し

- 1 教職員のマインド・セット(1)
- 2 教職員のマインド・セット(2)
- 3 児童・生徒のマインド・セット
- 4 「みんなが、みんなで」

FSS

あたま

## 状報

知識

こころ

## 情報

意識

FSS

【設定1】 このおじいちゃんと、今朝がた、あいさつを交わしたばかりだったとしたら？



FSS

【設定2】 このおじいちゃんが、あなたのおじいちゃん、もしくは両親だったとしたら？





死ぬも地獄、生きるも地獄  
では、為す術は無い？

【毎日新聞】 撮影:手塚耕一郎 2011.3.11. 15:55 名取市

【設定3】 もし、逃げ遅れたのが  
(けがをした)あなただったら？  
誰かが、駆け戻ってきてくれる？



## 応用編

～ネガティブ・スパイラルを变革／反転する～

### 神戸市長田区真陽小学校区の状況



南海トラフ巨大地震では  
地区の8割が浸水する  
(内閣府想定)



地震発生から  
83分14秒  
防災情報・奥木通彦  
NHK大蔵、タニスタ



地震発生から  
96分47秒

# 我が事

あらかじめできることを考えて実行する

# 我々事

# 我が事

自分が助かっているから他人を助けられる  
「サバイバーからサポーターに」(諏訪清二)

# 我々事

### 神戸市長田区真陽小学校区の概要



阪神・淡路大震災  
では、住宅被害が  
激しかった地区

新旧混在  
人口約6,650人  
高齢化率30%超



Photo: Seiji KONDO

### こどもたちのイメージ



「ひとが死ぬ」、「たいへんなことがおきる」、「家もえる」、「ぜんめつする」 etc.

神戸市長田区真陽小5年生, n=25 (2014.10.実施)

## こどもたちのイメージ



“後ろ向き”ではない言葉は、「ひなん訓練」、「防災ぶくろ」、「高台」・・・ etc.  
「ボランティア」、「きずな」、「助け合い」という「ことば」は皆無かった

神戸市長田区真陽小5年生, n=25 (2014.10.実施)

## 校内防災放送プロジェクト



## 校内防災放送プロジェクト



クイズ、インタビュー、  
読み聞かせ、ラジオドラマ etc.



これは、第1回。  
学校にいるときに、災害の話を知らない人がいたら知らせたいから、  
校のなかで、どのような活動をとるとよいかについてどうするか？

Local Knowledge

お話を、「この「学校」のなかでしかたがって北のほうに決まっています。  
防災訓練であることになっておき、あわせて、自分の指示した

やればできる！  
でも、これで充分？

防災教育

安全管理

## 学校⇔地域

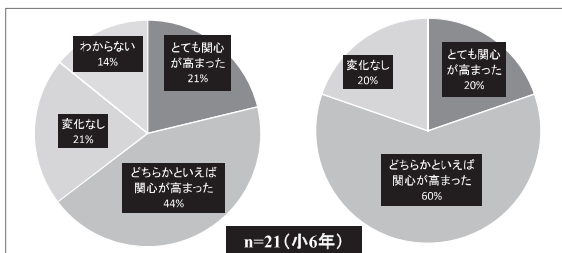


校内放送という媒体を通じた join&share

防災福祉コミュニティ  
本部長 中谷紹公さん  
2015.9.7. 生出演



## 防災に対する関心の変化



高関心層  
65%が関心UP

低関心層  
80%が関心UP

## 防災・災害のイメージ (2016年6月実施/6年生)





防災・災害のイメージ (2016年6月実施/6年生)

人、なみ、火事、食べ物、  
たすけ合い、命、防ぐ、守る。

サバイバーからサポーターになる！  
やれば、きっと力になる！

こどもたちの前向きな思いを育む

学校

家庭・地域



きょうのお話し

- 1 教職員のマインド・セット(1)
- 2 教職員のマインド・セット(2)
- 3 児童・生徒のマインド・セット
- 4 「みんなが、みんなで」

みんなが、みんなで

**我々事**

総合力=地域防災力

**みんな**

*Who are WE?*

**みんな**

**顔**

**特養・慈恵園**  
(宮城県南三陸町)

67人の利用者のうち、  
47人が死亡、2人が行方不明に

http://memory.ever.jp/tsunami/higeki\_shizugawa-iikeien.html

中学生の活躍!

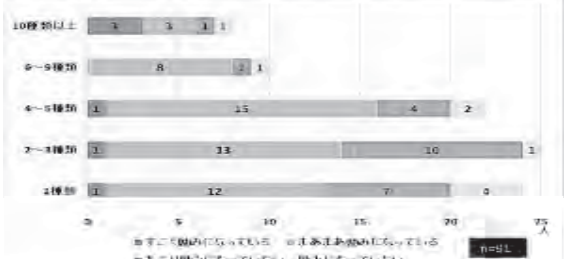


## 京都府京丹波町 「みんなでホッとCM」キャンペーン

町のケーブルテレビが自主放送しているニュース番組のブレイクタイムに、防火意識の向上を目的とした住民参加型の“火の用心”CM(約60秒)を継続的に放送

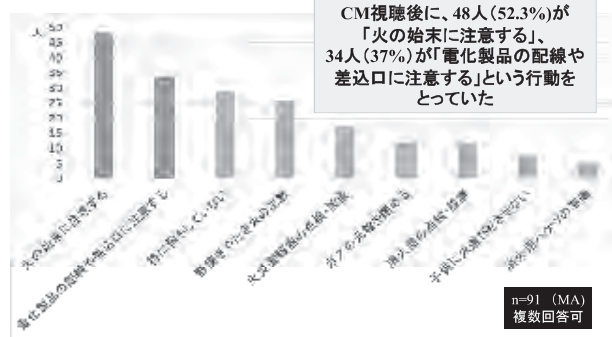


### 【結果】防火行動の励みになっているか



一度でもCMを視聴したグループは、「励みになっている」という回答が全体の過半数を占めていた

### 【結果】防火行動を実際におこなったか



CM視聴後に、48人(52.3%)が「火の始末に注意する」、34人(37%)が「電化製品の配線や差込口に注意する」という行動をとっていた

### 【結果4】自由記述欄 思いの共有

77種刀林が取巻入や住民の肩から心まで、火の用心をキチンと映像は各層に伝わるため、火災警報器の点検・点検が、

CMIに対してのポジティブな意見

地域一丸となって主体的に取り組む防災への思いが共有できている

柏子木と火の用心、渡方と、みんなが防火を、火災警報器の点検・点検、

# みんな顔

# みんな主人公

ご清聴ありがとうございました



2016年度 ぼうさい甲子園 優秀賞受賞

関西大学社会安全学部近藤研究室 [kondo.s@kansai-u.ac.jp](mailto:kondo.s@kansai-u.ac.jp)



**【伝達講習】**

**防災安全教育の現状と課題**

岸和田市立山直北小学校  
教諭 中内 勇也

【MEMO】

## 災害安全の現状と進め方

- ◇学校安全の現状
- ◇災害安全について
- ◇今後の学校安全の進め方（災害安全を通して）

岸和田市立山直北小学校 中内勇也

## 学校安全の推進に関する計画（安全管理）

### ▶ 学校における安全管理

- 管理下の事故は増加傾向
- 不審者侵入・交通事故への対応
- 東日本大震災を踏まえた自然災害への対応
- ※安全体制の整備



- ・学校内の安全体制の確立（施設設備、組織）
- ・家庭や地域と連携した安全体制の整備

## 学校安全の推進に関する計画（安全教育）

### ▶ 学校における安全教育

- 安全に関する知識、行動する能力が課題
- 指導時間の確保と教育手法、指導体系の整理
- ※安全教育の充実



- ・安全に関する知識とともに行動する態度の視点
- ・指導時間の確保、より効果的な教育手法導入
- ・東日本大震災の教訓を踏まえた安全教育

## 学校安全の推進に関する計画

### 【より実証的な学校安全施策の推進】

☆キーワードは『自立』『協働』『創造』  
◎『セーフティプロモーション』の考えに基づいた施策展開

- ・事件・事故災害に関する情報収集体制の整備充実
- ・実証的な安全管理につなげる分析調査機能の強化
- ・優れた取組事例の推奨



総合的かつ効果的な学校安全に係る取組みの推進

## 学校安全推進の具体的方策

- ①安全に関する教育の充実→「主体的」「共助」「公助」の視点
  - ②学校施設・設備の整備充実→耐震化、防災機能強化
  - ③組織的な取組みの推進→危機管理マニュアルの策定と見直し  
情報提供
- ※教職員が学校安全に関する一定水準の知識や資質を備える
- ④地域社会・家庭との連携→情報交換  
保護者地域ボランティアの養成、研修等  
地域学校安全委員会等の組織活用

## 学校安全の三領域

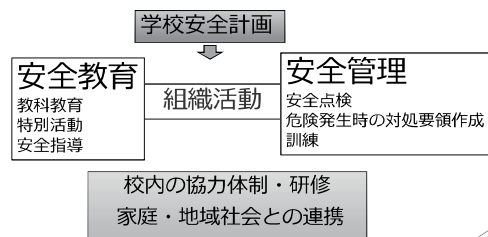
- ▶生活安全  
日常生活で起こる事故・事故災害・事件・犯罪等
- ▶交通安全  
様々な交通場面における危険と安全
- ▶災害安全  
地震、津波、火山活動や風水害等や火災、  
原子力災等

## 学校安全の意義

- ▶ 3段階の危機管理に対応した安全管理と安全教育
- ▶ ①事前の危機管理→環境整備、未然防止、研修
- ▶ ②発生時の危機管理適切→迅速な対応で最小限に
- ▶ ③事後の危機管理→2次災害防止  
心のケア  
通常生活の再開と再発防止

## 学校安全計画の策定・実施

（学校保健安全法第27条に基づく）



## 東日本大震災を受けた防災教育・防災管理等に関する有識者会議（H23年9月）

### 【防災教育】

- ◎自然災害等の危険に際して自らの命を守り抜くため『主体的に行動する態度』を育成する
- ◎支援者となる視点から、安全で安心な社会づくりに貢献する意識を高める

### 【防災管理】

- ◎災害時における安全を確保するための『防災管理・組織活動の充実』

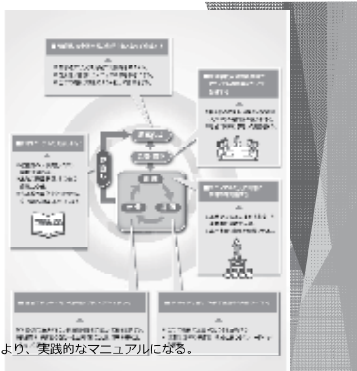
## 東日本大震災における学校等の対応等に関する調査研究

- ▶ 防災教育の確保に向け、主体的に行動する態度や支援者としての視点を育成する観点から児童生徒の発達の段階を踏まえた系統的・体系的な指導を行うことが必要。
  - ▶ 教職員の被災など、想定以上の災害が発生した東日本大震災の事例も考慮し、臨機応変に対応できる組織の在り方が求められる。
  - ▶ 引き渡しルールや避難所の開設・運営については、あらかじめ保護者や地域住民との連携を確立させておくこと。
- ☆防災マニュアルの作成にあたっては、保護者や地域住民、関係機関等の協働により作成するとともに、訓練の実施結果等に基づき、常に見直しを行うことが必要。

## 学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き（平成24年 全国の学校に配布）



これら一連のプロセスに全職員が関わることで、実践的なマニュアルになる。



## 発達段階に応じた防災教育

『生きる力』を育む防災教育の展開



災害に適切に対応する能力の基礎を培う

- ▶ 自然災害の現状、原因及び被災等について理解を深め、現在および将来に直面する災害に対して、的確な思考・判断に基づく適切な意思決定や行動選択ができるようにする。【知識、思考、判断】
- ▶ 地震、台風等の発生に伴う危険を理解し、予測し自らの安全を確保するための行動ができるようにすると共に、日常的な備えができるようにする。【危険予測、主体的な行動】
- ▶ 自他の生命を尊重し、安全で安心な社会づくりの重要性を認識して、学校、家庭及び地域社会の安全活動に進んで参加・協力し、貢献できるようにする。【社会貢献、支援者の基礎】

## 発達段階に応じた防災教育

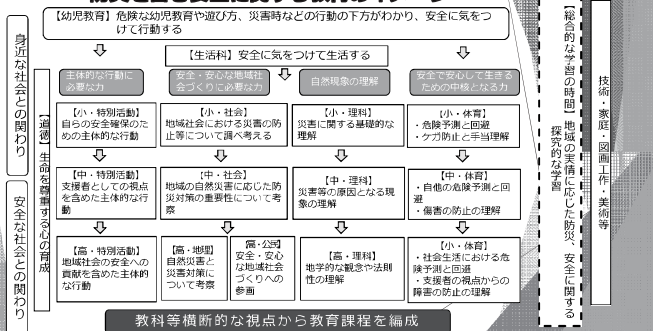


<p>▶ 高等学校段階の目標</p> <p>安全で安心な社会づくりへの参画を推進し、地域の防災活動や災害時の支援活動において、適切な役割を自ら判断し行動できる生徒</p>
<p>▶ 中学校段階の目標</p> <p>日常の備えや確かな判断のもと主体的に行動するとともに、地域の防災活動や災害時の助け合いの大切さを理解し、進んで活動できる生徒</p>
<p>▶ 小学校段階の目標</p> <p>日常の様々な場面で発生する災害の危険を理解し、安全な行動ができるようにするとともに他の人々の安全にも気配りできる児童</p>
<p>▶ 幼稚園段階の目標</p> <p>安全に生活し、緊急時に教職員や保護者の指示に従い、落ち着いて、そばや行動できる幼児</p>
<p>▶ 障害のある児童生徒等について</p> <p>上記のほか、障害の状態、発達の段階、特性および地域の実情に応じて危険な場所や状況を予測・回避したり、必要な場合には援助を求めることができるようにする。</p>

## 第2次学校安全の推進に関する計画の策定について（諮問）（平成28年4月18日 第106回中央教育審議会総会）

- ▶ 諮問のポイント
- 現行計画期間中の取組状況の検証及び社会の変化に基づく改善策について
  - ・震災の記憶の風化への対応
  - ・防犯・交通安全についての一層の充実方策
  - ・学校、家庭、地域、関係機関・団体との連携
  - ・新たな課題（スマートフォンやSNSの普及、新たな危機事象）への対応
- 学習指導要領の改訂を受けた安全教育推進のための、教科横断的な視点を踏まえたカリキュラムマネジメントの具体的方策について
  - ・教材や参考資料の開発・作成
  - ・関係機関との連携の在り方
  - ・各学年における教育効果の検証・改善の在り方
- 安全教育、安全管理を適切に行うために必要な組織体制の在り方と、教員が身につけるべき資質・能力について
  - ・教員養成段階で備えるべき知識・技能
  - ・キャリアステージに合わせた教員研修の在り方
  - ・校内体制の在り方

## 防災を含む安全に関する教育のイメージ



## 東日本大震災の教訓 災害対応のために必要な能力とは？

### “想定外”への備え

- ▶ すべての手順をあらかじめマニュアルに記載することはできない。（非現実的）
- ▶ 安全を確保するために、応用力を持つことが求められる

## 必要な4要素 <小松原、2012>

- ▶ **テクニカル・スキル**：技術的な知識とスキル
- ▶ **ノンテクニカル・スキル**：非技術的なスキル
- ▶ **態度**：前向きに対処しようとする姿勢、傍観者効果の排除、責任感、使命感等
- ▶ **心身の健康**

Research Institute for Social Safety, 2015.1.17

## ノンテクニカル・スキルとは

▶ テクニカル・スキルを補って、より完全なものとするスキル

- ・ 状況認識
- ・ 意思決定
- ・ コミュニケーション
- ・ チームワーク
- ・ リーダーシップ
- ・ ストレス・マネジメント
- ・ 疲労への対応

Research Institute for Social Safety, 2015.1.17

## マイアミ事故の教訓

- ・ **注意の一点集中**  
着陸脚のグリーンランプの故障に気をとられ自動操縦に任せきり
- ・ **役割分担の不適切**  
3人いるパイロット全員がランプの故障に追われていた
- ・ **不正確な情報伝達**  
管制官：高度異常で「そっちはどうなっている？」  
パイロット：ランプ故障は「大丈夫」

Research Institute for Social Safety, 2015.1.17

## スーシティ事故の教訓

- ・ エンジン推力による操縦は、応援にきた査察訓練機長に任せた  
機長自ら操縦しない
- ・ 機長は全員に状況を伝える  
「全油圧喪失」→管制塔、U A地上整備部門  
「よし、スーシティに着陸しよう」
- ・ 機長は全員の知恵を引き出す  
「今ギアを降ろすことについて、だれか意見はないか？」

Research Institute for Social Safety, 2015.1.17

## 多くの事例にみられるチーム行動の問題点

- ▶ **リーダー不在**  
○ 全体を見る人がいなくなる
- ▶ **不正確な情報伝達**  
○ 言葉の正確な伝達には共通認識が必要
- ▶ **遠慮による伝達不能**  
○ 上下関係などが情報伝達に影響
- ▶ **集団浅慮**  
○ 全員が思い込むと、思い込みは激化する

Research Institute for Social Safety, 2015.1.17

## チーム力を発揮するために

- ▶ **リーダーの役割が重要**
  - ・ 自らは動かない
  - ・ 方針を決定し、全員に伝える
  - ・ 異なる意見を積極的に出させる
- ▶ **フォロワー（メンバー）の積極的姿勢**
  - ・ 災害時には、正解のない状況に直面することが多い
  - ・ あいまいな状況下で、できるだけよい判断をし、みんなで正解を作り出す

### よい決断のためには

- ・ 必要な情報をできるだけ集める→よい情報認識
- ・ 多角的な視点を持つため、積極的に異論を求める→よい意思決定

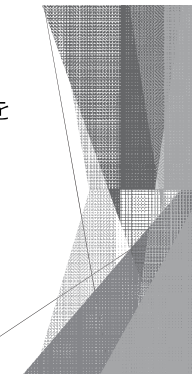
Research Institute for Social Safety, 2015.1.17

最後に  
全ての学校において  
『**学校安全の中核となる教員**』を

☆各地域や学校での指導者となるために  
**積極的に！**

情報収集

ネットワーク



**【講義】**

**実践的避難所開設と避難訓練**

NPO法人 日本防災士協会 防災士 山口 泰信  
(BCP JAPAN)

【MEMO】



### 実践的避難所開設と避難訓練

NPO法人 日本防災士協会  
防災士 山口 泰信  
(BCPJAPAN)

### 地域の防災訓練

災害から地域住民同士で命を守るのが一番の目的

- |             |            |
|-------------|------------|
| 1. 避難(津波避難) | 1. 避難完了の目印 |
| 2. 初期消火     | 2. 家族安全の目印 |
| 3. 119番通報   | 3. 土嚢積み    |
| 4. 応急手当     | 4. ロープ結び   |
| 5. 炊き出し     | 5. 発電機起動   |
| 6. 情報収集伝達   | 6. 人命救助    |
| 7. 避難所運営    | 7. 防災倉庫の確認 |

けが人役の人が揺れで気分が悪くなったので、若い人に代わってもらった



痩身エステサロンで  
施術中の状態からの避難訓練



### 実践的避難者受入と避難訓練について

- 地域の防災訓練
- 企業の防災訓練
- 学校の訓練の種類
- 一例をご紹介します(夕陽丘高校)
- 生徒参加型訓練
- 避難所とはこんなところ
- 避難者の自治運営と学校側の心得
- 対応体制1・2・3・4・5・6・7



### 企業の防災訓練

災害から社員とお客様の命を守るのが一番の目的

- |               |                |
|---------------|----------------|
| 1. 避難(津波避難)   | 1. 安否確認        |
| 2. 初期消火(消火栓)  | 2. 土嚢積み        |
| 3. 119番通報     | 3. ロープ結び       |
| 4. 応急手当       | 4. 発電機起動       |
| 5. 設備点検       | 5. ジャッキアップ     |
| 6. 情報収集伝達     | 6. 帰社判断訓練      |
| 7. 衛星電話訓練     | 7. 事業継続訓練(BCP) |
| 8. エレベーター閉込確認 | 8. バルブ停止       |
|               | 9. 機械の安全停止訓練   |

社内で机上訓練+簡易搬送訓練



階段を降りれる担架で降ろす訓練を行った



会社内に装備されているヘルメット&防災リュックを実装



落ちないようにロープで結ぶ訓練



全員でロープで「本結び」をして輪を作った



救出訓練



### 学校の防災訓練

災害から生徒の命を守るのが一番の目的

- |                               |                   |
|-------------------------------|-------------------|
| 1. ホールド                       | 1. けが人搬送          |
| 2. 風板・窓・テレビから離れる訓練            | 2. 逃げ遅れ確認         |
| 3. 避難(津波避難)                   | 3. 防火扉開閉          |
| 4. 点呼                         | 4. 警報機鳴動          |
| 5. 応急手当                       | 5. 理科室・調理室などの安全確認 |
| 6. 生徒情報の持出し                   | 6. シューター降下        |
| 7. 非常階段のドアが開かないので、別の階段から降りる訓練 | 7. 地域住民受け入れ       |

### 実践発表

府立夕陽丘高等学校における実践的な避難訓練について

P 27 参照

### 生徒参加型訓練

1. 避難誘導訓練(クラスの引率・点呼は学級代表が実施)
  2. 避難経路の確認
  3. 二次災害防止点検
  4. 応急手当
  5. 避難者受け入れ
- 先生&けが人&学級委員長にアンケートを必ず実施すること
  - 自動化するくらい行うことが重要



被災地はこんなところ

避難所はこんなところ

被災地はこんなところ  
(東日本大震災の石巻市)



被災地はこんなところ  
(東日本大震災の石巻市)



被災地はこんなところ  
(東日本大震災の石巻市)



被災地はこんなところ  
(東日本大震災の亘理町の学校)



被災地はこんなところ  
津波被害の体育館 床も壁も剥がれる



被災地はこんなところ  
(津波被害の学校 天井が落ちている)



被災地はこんなところ  
(東日本大震災の女川町)





被災地はこんなところ  
(東日本大震災の大川小学校)



被災地はこんなところ  
(東日本大震災の大川小学校)



被災地はこんなところ  
(東日本大震災の南三陸町庁舎)



避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



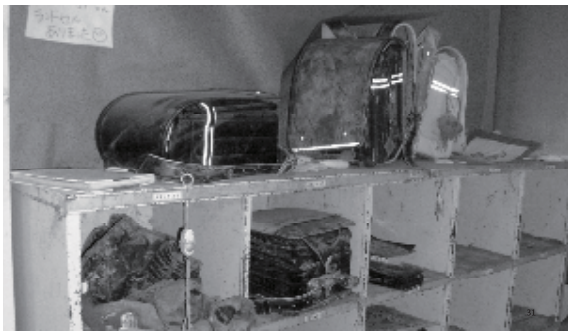
避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



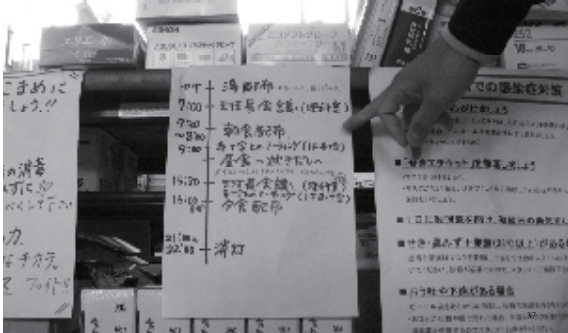
避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)





避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



避難所はこんなところ  
(新潟中越地震の場合)



ボランティアとは  
(東日本大震災の場合)



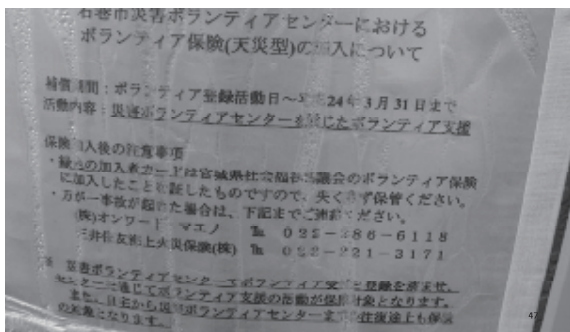
ボランティアとは  
(東日本大震災の場合)



ボランティアとは  
(東日本大震災の場合)



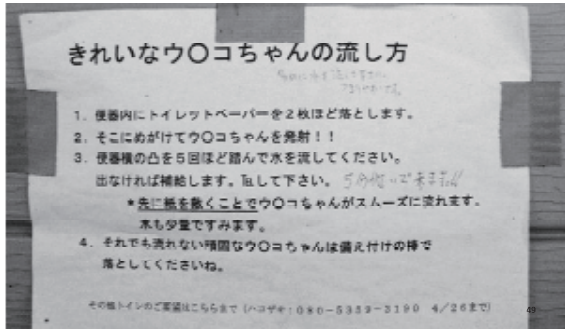
ボランティア保険に入ってください  
(東日本大震災の場合)



避難所はこんなところ  
(東日本大震災の場合)



## 避難所はこんなところ (東日本大震災の場合)



## ボランティアとは (東日本大震災の場合)



## ボランティアとは (東日本大震災の場合)



## 避難所運営 3つの視点

- ❖安全確保・生活の場としての避難所
  - ❖災害時要援護者に配慮した避難所
  - ❖住民の共助により自治運営される避難所
- ↑上記を実現するために先生の初動が必要

## 避難所の役割

1. 安全の確保
2. 食料・水・生活必需品等の提供
3. 生活場所の提供
4. 健康の確保
5. 衛生的環境の提供
6. 情報の収集・交換・提供
7. コミュニティの維持・形成



## 災害時の支援対象者

1. 災害によって現に被害を受けた者
2. 災害によって被害を受けるおそれがある者  
(避難情報により避難した者)
3. 自主避難者
4. 在宅避難者
5. 帰宅困難者(帰宅断念者&遠距離徒歩帰宅者)
6. 訪問者(支援や身内の捜索など)
7. 広域避難者(市町村域外又は府域外)

## 避難所の現実 is こんなところ

1. 被災者がガラスを割って入ってくる
2. 早く来た人が体育マットを勝手に使用
3. 早く来た人から無秩序に避難場所を確保していく
4. トイレの使用が無法
5. 教員を怒鳴る被災者(税金泥棒などと罵る)
6. 物資の奪い合い・盗難
7. 避難者同士の喧嘩 ボランティアとの喧嘩
8. 日本の常識的ルールを知らない外国人
9. 盗むボランティア
10. 資材・食料を勝手に使う炊出しボランティア
11. 酒盛り(被災者orボランティア)
12. 地域のことが分かっていない役所の職員(不慣れ・県外の人・支援が出来てない)
13. 学校運営のことしか考えない教職員

## 災害の時間帯

1. 春・夏・秋・冬
2. 雨・強風・台風・晴れ・炎天下
3. 昼間・夜間・平日・休日
4. イベント開催中(体育祭・文化祭など)
5. 通学中・授業中・放課後

- 初期訓練は秋晴れの授業中が良い
- 勤務時間外の災害対応を決めておく
- 役所から派遣される人を当てにしない。教育庁も後手になることを心得よ。

## 勤務時間外の災害

1. 避難者が使っていい施設とトイレを決めておくこと
2. 決めておいても、人数が増えればあらゆる場所が避難者の使用対象となります
3. 避難者が絶対使ってはいけない部屋を避難者と事前に決めておくこと(校長室・職員室・理科室・調理室・事務室・放送室・体育用具室・クラブ部室・美術室・音楽室など)

## 避難者の自治運営と学校側の心得

校長先生、または教頭先生は学校という施設の代表である

1. 避難所自治会の毎日の会議の実施促進
2. 避難所自治会のすべての会議への出席と助言
3. 自治会の各ルールの決定に関わり公平性確保
4. 学校という施設を仲良く使用する為のルール作り

## 対応体制

1. 災害対策本部長(1校長・2教頭・3事務長)
2. 避難所対応者(体育の先生を含むこと)
3. 生徒安否確認対応者
4. 教員安否確認対応者
5. 大阪府&教育委員会対応者
6. ボランティア対応者(初期の頃徐々に自治運営に任せる)
7. 施設&設備維持対応者
8. 保健衛生担当(保健の先生を含む複数人)

## 2 避難所対応者

1. 避難者の班編成の確立
2. 避難所自治会の全会議への出席と助言
3. 自治会の各ルールの決定に関わり公平性確保
4. ペット対応の指示
5. 安全通路の確保(余震が頻繁に来る)
6. 県や市からの広報刊行物等の配布掲示
7. 外国語対応の表示(英語・韓国語・中国語)
8. 情報管理、校内放送、コピー機
9. 避難者への郵便物&宅配荷物の管理
10. 保健衛生(避難者用の薬の管理)

## 避難者の自治運営と学校側の心得

校長先生は学校という施設の施設長である



避難者の自治運営に積極的に関わることで、安全・衛生・美化の維持が可能となり、秩序が保たれる。自治運営をサポートし続ける

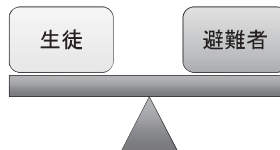
被災者は、家・財産・肉親・仕事をなくしており、心が不安定な状態である。だから、避難所運営のサポートをしてあげなければ初期の時点では自治運営が成り立たない。また教員が被災者の場合もある。

## 物資支援の数が足りなくても

- 物資を受け取る
- 多ければ、周りの避難所に配布
- 1000人の避難者に100個のおにぎりしか届かない場合でも受け入れて公平に配布する(幼児高齢者妊婦などを優先すれば可能である)
- 多様な支援をできるだけ受ける
- 避難所の中の時間帯別 在籍人数を把握しておけば、タイミングを合わせれば、かなりの支援を受けやすくなる

## 1 災害対策本部長

- 1校長・2教頭・3事務長 決定順位を明確に
- 生徒と避難者を同格として判断を行うこと
- 旅行者・外国人も公平に扱うこと
- 避難所の長として『避難者受入宣言』する



## 2 避難所対応者

1. 駐車場の管理・考え方(運動場が駐車場になる)
2. 車中泊者への対応(エコノミー症候群→ダンボールベッドが有効→寝起きが楽になると活動が増える)
3. 支援物資のトラック搬入口の場所などの決定
4. 物資の保管場所などの決定
5. 学内避難者への物資の配給場所の決定
6. 在宅避難者への物資の配給場所の決定
7. 上記の雨天時の対応





## ボランティアなどの多様な支援

1. 食料・支援品などを持ってくる（炊き出し）
2. 遠くから現地に来て、避難所運営を手伝う
3. 現地の被災者の復旧活動を手伝う
4. 安否確認代行
5. 運搬・移動の手伝い
6. バイクによる避難所間や自治体施設間の伝令
7. 子供たちの心のケア、介護、理容、歯科、マッサージ、演劇・コンサート・紙芝居・足湯・風呂などの特殊活動
8. 企業として、屋根修理、重機や配電インフラ整備など
9. 保険・医療・弁護士などの専門家

73

## 7 施設&設備維持対応者

1. 施設が使用できるかの確認
2. 設備使用の制限を明確にする
3. 危険箇所への立ち入り禁止表示
4. 上下水道・ガス配管・プール配管の管理
5. 通電時の対応（インフラ復旧時の対応）
6. プールの水位管理（地域住民にプールの水を解放する）
7. 立ち入り禁止区域の巡回
8. 備品管理・被災者掲示板・調理室など
9. ゴミ置場の管理 ゴミ収集車の対応

## 7 施設&設備維持対応者

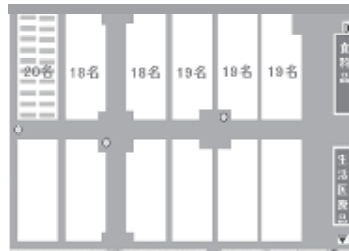
1. パソコン&wi-fiの設置場所決定
2. 公衆電話設置場所決定（騒音を考慮）
3. 仮設トイレ設置場所決定（排水を考慮）
4. 仮設シャワー設置場所決定（排水を考慮）
5. 仮設洗濯機設置場所決定（排水を考慮）
6. 洗濯物干場の設置（見た目とセキュリティ）
7. 足湯・紙芝居・演劇・ミニコンサートなどの場所

## 8 保健衛生担当

1. 応急手当&保健所との連携（簡易カルテ用意）
2. 受援体制の確立（県外医療隊の受入）
3. 施設の衛生面の維持
4. 感染症対策 アルコール除菌の励行
5. 手洗い・マスクなどの配布
6. トイレの衛生状態確保
7. 窓の開閉による体育館&避難教室の換気
8. 掃除当番を決めて、共有場所の清掃と掃除用具の説明など（掃除は極めて重要なこと）
9. 怪我人・病人・高齢者・妊婦・乳児への特別な配慮
10. 障害者への対応（出来るだけ専門の施設への移動を促す）
11. 男女の更衣室の用意
12. 育児室・授乳室の準備
13. 生理用品の配布の準備（女性が対応する方が良い）

避難所における通路の確保は事前準備で

1. 体育館シートを通路として使用
2. 車イスの動線
3. お年寄りやトイレに近い場所
4. バリアフリーを意識
5. 照明の位置
6. 蚊取り線香・喫煙場所・ペット対応
7. 壁側を通路にすることで目の不自由な方へ壁伝いに歩けるよう配慮
8. コンセントの独占使用を禁止し、共有できるルールを作る



## 安全ベストの着用



- ・リーダーは目立つこと
- ・全方向視認
- ↓
- ・情報が集まる
- ・誘導しやすい
- ・統制がとりやすい
- ・事故防止

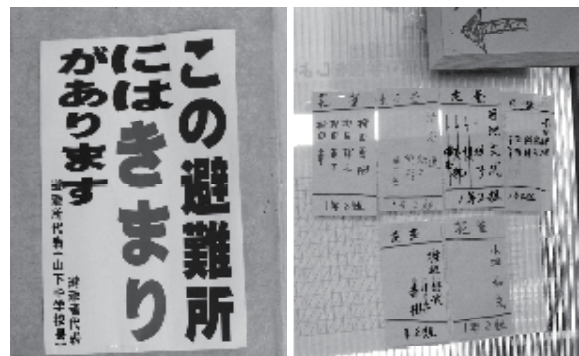


## 成功事例

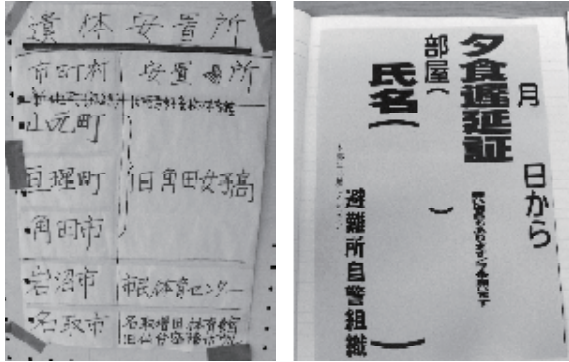
宮城県石巻市立山下中学校



「きまり」があります / 避難者リスト



遺体安置所 / 夕食遅延証



体育館や教室外の場所での避難



山下中学校: 廊下に机を出した



山下中学校: 子供の遊び部屋



山下中学校: 避難者の郵便物管理



山下中学校: 並んでいるトイレのスリッパ → 整然とした学校避難所



最後に

「事前の一策、事後の百策に勝る」

防災教育は生徒が就職した後も  
役に立つことですので  
継続してください

ご清聴ありがとうございました。

スカーフやギブス、腕章など目印をつけて、団結力意識向上



防災士・株式会社BCPJAPAN 代表取締役山口泰信  
info@bcjapan.jp http://www.bcjapan.jp



**【実践発表】**

けが人等の発生を想定した避難訓練について

－生徒の role play による－

府立 夕陽丘高等学校  
養護教諭 出水 典子

【MEMO】

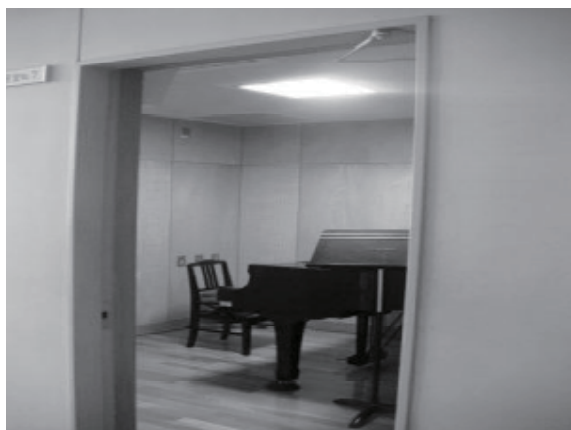
けが人等の発生を想定した  
避難訓練について  
—生徒のrole playによる—

大阪府立夕陽丘高等学校  
養護教諭 出水典子



本校の立地状況

- 上町活断層の上に建つ
- 屋上にプールがある
- 防音のレッスン室が多数ある
- 音楽ホールが上層階にある
- 一時避難場所(五条公園)に隣接する
- 総合病院(第三次救命センター)に隣接する
- 大阪市内で狭小な運動である



学校防災アドバイザー派遣事業  
を活用して

平成27年度～

- 防災士 山口泰信氏と連携をスタート
- 防災教育実践委員会メンバー

校長、教頭、首席、総務部長、生徒指導部長、  
自治会主担、PTA役員、保健主事、養護教諭

## これまでの取組み(平成27～)

### 平成27年度

1. 防災士と校舎内外の点検実施 7月
2. 防犯及び防災計画の見直し 10月
3. 職員研修「災害発生時に大切なこと」1月

- \* 大阪880万人訓練 文化祭で実施 9月
- \* 炊き出し体験 12月

### 平成29年度

1. 実践的避難訓練実施 6月
2. 防犯対策検討会議 8月
3. 防災講話(生徒対象) 12月
4. 職員研修 HUG実施 1月

- \* 大阪880万人訓練実施 近隣保育園幼児の避難受入れと保健主事による講話 9月
- \* 炊き出し体験 12月  
(天王寺区役所防災担当者による講話)

### 平成28年度

1. 防災講話実施(生徒対象) 5月
2. 防犯対策について検討 8月
3. 職員研修  
「避難所運営での心構え」1月

- \* 大阪880万人訓練  
代休のため家庭で実施 9月
- \* 炊き出し体験 12月

## 実践的避難訓練実施内容

- ◎平成27年度まで  
避難誘導訓練・避難経路の確認
- ◎平成29年度から(H28は雨天のため講演に変更)  
改善点 \* クラスの引率・点呼は学級代表が実施  
追加内容 \* 2次災害防止点検  
(3点) \* 応急手当  
\* 避難者受け入れ

新たな取組み \* 地域避難訓練・避難所設営訓練

## 二次災害防止点検について

### ゆれがおさまったら

- 学級代表2名はクラスの生徒をグラウンドまで避難誘導する
- 授業担当者は、教室付近の施設設備の点検
- 破損箇所の点検とがれきの確認  
誰が・どこを点検して、どのようにであったか  
トランシーバーを用いて本部に報告する

## 校舎内点検

• 各階ごとにチェックシートで点検箇所の確認

ルート	チェック場所	時間	火災	ガラス倒壊物	廊下・階段通行	確認者
1階	3-1教室		点検	点検	可	4組
	3-2教室		点検	点検	可	4組
2階	3-3教室		点検	点検	可	4組
	3-4教室		点検	点検	可	4組
3階	3-5教室		点検	点検	可	4組
	3-6教室		点検	点検	可	4組
4階	3-7教室		点検	点検	可	4組
	3-8教室		点検	点検	可	4組
5階	3-9教室		点検	点検	可	4組
	3-10教室		点検	点検	可	4組

ルート	チェック場所
授業クラス点検	3-7教室
↓	3-6教室
空き教室点検	女子トイレ
↓	3-5教室
北館2階廊下点検	3-4教室
↓	3-3教室
エレベーターホール でA・Bに分かれる	3-2教室
↓	3-1教室
A班:本館2階 廊下点検	男子トイレ 職員室
↓	地学研究室
B班:本館2階 各部屋点検	地学教室
↓	給品部 進路指導室 国語研究室 数学研究室 LAN教室 物理研究室 物理講義室
A班:南階段から1階へ	
↓	
A班:食堂点検	
↓	
本部連絡	

## がれきについて

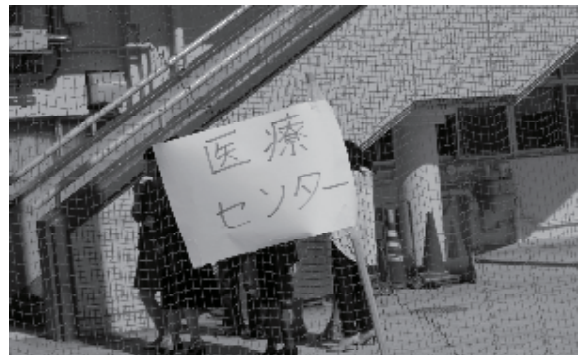
- がれき、ガラス破片は段ボール等で準備する
- 校舎内の30箇所に置く
- 設置は当日の直前に手分けして設置する
- 水もれ、器具の破損を想定する



### 応急手当について

- 保健室は使えないことを想定し、グラウンド(避難場所)に医療センターを設置
- 負傷者は生徒から、10名をあて、それぞれに介助者をつける
- 応急手当班の教員(10名)で対応する。
- 三角巾固定について学ぶ

### グラウンドに医療センターの設置



### 応急手当内容

- ①前腕部の切創
- ②頭頂部の挫創
- ③足関節靭帯損傷
- ④上腕部骨折
- ⑤手掌の挫創

### PTSD(心身症への対応)

- ⑥ひどいめまい
- ⑦吐き気
- ⑧気分不良・冷や汗
- ⑨過呼吸
- ⑩頭痛

### 負傷内容 (外科)

#### 足関節靭帯損傷

「運動場に避難の途中、階段を踏み外し足首を捻挫する」



三角巾で足首を固定する





### 【想定】

南海トラフ地震：大阪震度6弱

### 【状況】

ケガ人・周辺住民が校内へ避難

### 【実施内容】

- 初動確認：
- ・避難所の開設(体育館)
  - ・避難経路の確認
  - ・避難者の受け入れ・集約
  - ・避難者の誘導
  - ・応急手当
  - ・二次災害防止点検
  - ・炊き出し体験

### \* 避難所の開設



### \* 避難者の受け入れ



### \* 応急手当



## 成果

### 訓練の有効性

- ・本番を想定できて良かった
- ⇒本番に近い状況を体験することで課題が見えてきた
- ・生徒、学級代表等に責任感が出て良かった
  - ・地域連携の必要性が感じられた

## 今後に向けて

### 教職員アンケートから

- ・災害発生時の生徒安否確認への工夫  
(欠席・早退者、保健室来室者、レッスン中、水泳授業)
- ・学級代表の誘導で大丈夫か不安である
- ・無線の電波状況が悪かった
- ・外階段の混雑がひどいので、南階段の使用を考えるべきである

## 今後に向けて

### 生徒アンケートから

- ・避難者カードにわかりにくい欄があった
- ・階段で待っている時間が長かった
- ・点呼に時間がかかった
- ・グラウンドで1列に並び替えるのに時間がかかった

## 次年度への改善点

- ・誘導経路を変更する
- ・Voice Walker、名票を保健室に置く
- ・名票をすぐ持ち出せる事務室にも置く

Voice Walker



## 今後の取組

### 職員研修内容

HUG (Hinansyo Unei Game

＝避難所運営ゲーム)を実施予定

- HUGとは、避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲーム。







